Ecological Times

2011/12/15 第４号【エコプロダクツ展】

次世代の新聞

・エコにこだわって作りました

・環境を学ぶ大学生の

活動がわかります

環境を守るのは神様ではなく

人間です

写真提供
里山再生保全ネットワーク

大学生が行う環境活動

皆さんこんにちは。武蔵野大学環境学部環境プロジェクトの一つ、Ecological　Times　Project です！今回、エコプロダクツ展にブースを設けるにあたり本プロジェクト初の紙媒体での発行を実施いたしました。・・・と、この２行を読まれても一体何のことを言っているのか分からないという方が多いと思います。ここではそんな疑問を解決していきます。この新聞を読まれて、私たちのブースにより関心を寄せていただければ幸いです。

・環境プロジェクトとは？

環境プロジェクト（以下環プロ）とは西東京市と有明市（平成 24 年度開校）にキャンパスを持つ武蔵野大学の環境学部環境学科にある選択授業（つまり必修ではない）のことです。この授業ではいくつかのプロジェクト（2011 年 10 月現在 18 プロジェクト）が存在し、主に環境に関わる活動をしています。学生は既存のプロジェクトに参加しても構いませんし、新規にプロジェクトを立ち上げ、活動を行うこともできます。先生方はアドバイスや手助け程度の介入しかせず、学生が主体となって目的設定から企画・実施まで行われています。そのため学生の自主性を尊重し、企画力、プレゼン力、目的遂行能力を成長させる授業形態となっています。またその活動は多岐に渡り毎年新たなプロジェクトが設立され、一定のイベント達成をもって解散するものもあれば、リーダーを下の学年に

有明キャンパスの完成予想図

引き継いで何年にも渡って活動しているプロジェクトもあります。活動内容一つとっても環境関係のものから地域復興や難民についてのボランティアのようなことをしているところもあります。そういった意味でも非常に自由度の高い授業だと言えるでしょう。さらに企業や NPO と協力しているプロジェクトもあり、その活動は学内にとどまりません。本紙を作成しているのも環プロの一つです。

・どんなプロジェクトがあるの？

では、具体的にはどんなプロジェクトがあるのか？現在活動している 18 のプロジェクトのうちいくつかを紹介していきます。まず、最も人数の多い【新キャンパス】さん。

新キャンパスプロジェクトのメンバー

このプロジェクトは来年度開校する武蔵野大学の有明キャンパスの環境負荷低減を目標に活動しているプロジェクトです。建設の段階から着手し、カフェの内装のデザインやボトルを持参して購入するという自動販売機の導入、エコトレーという廃棄物を削減できる容器の使用など有明キャンパスの運営や設備に関する様々なことを手掛けています。特にカフェに関しては昨年度の活動で生徒自ら運営していただく企業をみつけており、有明キャンパスの設備・運営にこのプロジェクトの活動が大きく影響しています。

今年行われた CandleNight のメインモチーフ
【花火】

Ecological Times Project

さて、環プロについて説明してきましたが、ここからは本紙を作成している Ecological Times Project(略称：エコタイ)について紹介していきます！
(右が本プロジェクトのロゴになります)

概　要

平成 23 年度 4 月に正式発足した本プロジェクトはその名にある“ エコタイ ”という新聞を発行することで武蔵野大学生や一般の方の環境に対する意識の向上、さらに他環プロの広報を担い環プロ全体の知名度向上を目標として活動しています。主な活動は新聞の作成・発行、SNS などを使った広報。2011 年 11 月現在 6 人(記事作成 4 人、イラスト担当 1 人、モニター 1 人) で活動しています。簡単にいうと、学科規模の新聞委員会のようなものです。新聞作成以外には SNS を用いた広報や、他プロジェクトへのインタビューなどを行っています。今回紙媒体で発行するにあたり NPO 法人そらべあ基金、イーソリューション株式会社にご協力していただいております。

活　動　実　績

下記の表がエコタイの活動実績になります。年度初めの段階では実績の倍近い量を発行しようと考えていましたが、予想以上の難しさと、質の向上のためにモニターや修正に力を入れたため結果として号外含め 6 つの発行に留まってしまいました。

今後は紙媒体での発行を中心に余裕を持った発行が定期的に実現できるように活動していきます。また、本プロジェクトの広報を強化し、発行部数・HP へのアクセス数増加を目標に活動していきます。

年月日	活　動　内　容
2010/10	先生方に相談の後暫定的に発足
11	NPO 法人そらべあ基金のパーティーに参加、インタビュー
2011/ 4	創刊準備号発行（環境問題の簡単な紹介）
5	授業内の各プロジェクト紹介において発足を宣言、正式発足
	ロゴ完成
	各プロジェクトリーダーへインタビュー（計 9 つ）
6	創刊号発行（各プロジェクトの紹介）
	号外発行（夏至の Candle Night 特集）
	HP の作成・運営開始
7	第 2 号発行（節電について）
	有明キャンパス見学
9	ブログ・Twitter・Facebook・mixi での広報開始、担当者決定
10	第 3 号発行（有明キャンパスについて）
	NPO 法人そらべあ基金の会誌に学生レポーターとして投稿、以降活動を支援していただく
	紙媒体での発行企画
11	紙媒体での発行準備、印刷条件の選定を NPO 法人そらべあ基金にご協力いただく
	デザインなど新聞作成のノウハウを学ぶ
12	エコプロダクツに出展

エコタイの内容

それでは、実際に発行したエコタイの内容を紹介していきます。

まず、最初に作成しました『創刊準備号』。こちらでは世間によく知られている環境問題である「酸性雨」や「温暖化」について簡単に紹介しました。創刊準備号ということもあり、総合的に浅く紹介したものが良いと考えたからです。その中で一番強烈な文句は ” 厚さ３ mm が地球を救う !?” です。みなさんは知っていますでしょうか？地球を守っているオゾン層が３ mm の厚さしかないことを！このわずかな厚みが太陽から放出される紫外線を防いでいるのです。オゾンホールという話を聞いたことがあると思いますが、たった３ mm しかないのなら穴が空くというのも分かる話でしょう。創刊号ではこのように環境問題の基本的なことについて簡単に記述しました。環境問題に興味が湧きましたでしょうか？

６月には『創刊号』と『号外』の２つを発行しました。創刊号ではインタビューに協力していただいた 10 プロジェクトの紹介記事を掲載しました。数年前から活動しているプロジェクトもあれば発足したばかりというものまであり、個人的にも大変参考になるお話を伺えました。この号が最もみなさんに読んでいただきたい号です。是非本紙最後にあります URL から本プロジェクトへアクセスしていただき、この創刊号をご覧下さい。

〈特集１：Candle Night〉

初の号外はキャンドルナイトさんの夏至イベントの特集。朝の準備段階から最後の片づけまで密着取材しました。そのためイベントでは見られない準備段階に初めて参加させていただきましたが、アロマキャンドルの香りと花火をテーマに並べられた幻想的な光景・・・この記事を読まれればキャンドルナイトに参加したくなること間違いないでしょう。

キャンドルを用いた
幻想的な灯

次回のキャンドルナイトは 12 月 22 日、武蔵野大学５号館で行われます。みなさん奮ってご参加ください。ちなみにこの号外は NPO 法人そらべあ基金の会報誌に要約版を掲載させていただきました。そちらも HP からご覧いただけます。

イベント終了後に撮影した
Candle Night の皆さん

〈特集２：新キャンパス〉

皆さんは今年の夏、節電をしましたか？先の震災で電力不足が叫ばれた７月、『第２号』では節電についてを特集し、呼びかけました。夏用の節電方法を記載しましたが、中には冬にできるものもあります。東京電力は今冬での大規模な電力不足はないとしていますが、節電はなにも停電を予防するために行うものではありません。冬の間も無理のない範囲で節電を行ってみてくださいね。

本紙冒頭でも申しましたが武蔵野大学は来年度有明にキャンパスの開校を予定しております。10 月には夏休み中に新キャンパスプロジェクトさんのご厚意の元、建設中のキャンパス内に入らせていただきました。通常なら入ることのできない建設現場では環境という側面からも様々な工夫がなされていました。さらに 13 階建ての校舎には多くの免震構造体が備えられており、間近に見ることができました。武蔵野大学自体に興味をもたれた方はこちらをご覧いただくととても面白いと思います。

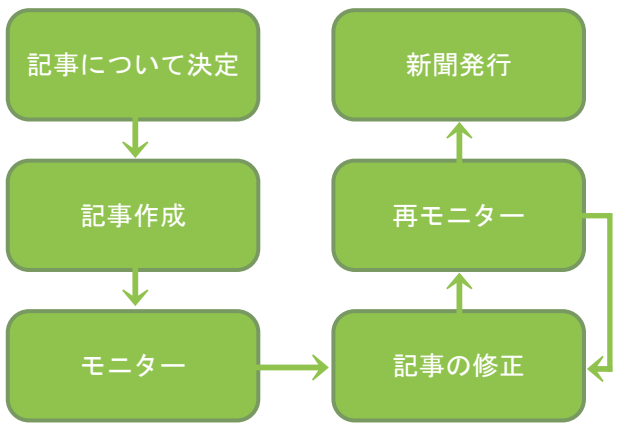
如何でしょう？どれか読みたくなる記事はありましたか？少しでも興味をもたれた方はすぐアクセス！

新キャンパスを支える免震構造体

新聞作成のプロセス

本プロジェクトのメインとなる新聞作成は下記の流れで作成しております。内容についてはどのようなものなら読者の興味をそそるかを考慮しながら決定しようとしていますが、うまくできていません。記事の内容が決まり、各々に分担したら各自記事を作成し、代表に提出。代表はそれを編集します。レイアウトもそのとき同時に行います。こうして新聞が出来上がると発行の前にモニターしてもらいます。これは誤字脱字もそうですが、内容に誤りがないか、分かりにくい説明はないかをチェックします。これはメンバーに日本文学文化学科の方がいるのでそちらに行ってもらっています。日文ということで特に表現や分かりにくい説明をチェックしてもらい、修正しています。環境の内容については環境学部の先生方にモニターをお願いする場合もあります。新聞や本を読まれない学生が多いため文章は比較的やわらかく書いています。また、環境に関する知識が無い方が読んでも分かるように読みやすく、分かりやすい記事作りを目指しています。

↑はエコタイのイメージキャラクター『エコ太郎』



メンバーが得られるもの

ここまでプロジェクトの活動内容等を紹介してきましたが、この活動を通してメンバーが何を得ることができるのか。それを紹介していきます。まず、なんといっても〈文章作成能力〉です。一番の活動が記事作りになるのでこの能力が最も身につきます。

特に上記に掲載したように本プロジェクトではモニターをしていただき赤入れ（修正）を行っていますので確実に得ることができます。最近ではプロのライターの方に赤入れしていただくこともあり、社会でも使えるレベルで経験を積んでいます。また、これに伴い書籍・ネットから読み取る力や出典に注意するようになるなど多くの知識が身につきます。

2 点目は〈パソコンスキル〉です。Word を始め Excel や Power point・PDF・イラストレータ・HTML による HP 作成・Skype・drop box などのオンラインストレージ・・・などなど様々なソフトや仕組みを使えるようになります。また Twitter や Facebook といった SNS の使用にも精通します。今後はこれを活かし、MOS 試験をはじめとした各 PC 検定の取得なども考えております。

3 点目は〈社会人としての経験〉です。NPO とのやりとりが増えてきた 10 月以降は特にこれが顕著に表れており、メールの書き方から会話・名刺・アポイントなどのビジネスマナーから納期を設定する予定の立て方・進め方。見積もりをもとに予算を考え活動を決定するお金という概念まで社会人としての経験を得ることができます。

本プロジェクトメンバーは以上のようなスキルを身につけることができますし、得られるよう努力しております。これだけ多くの経験が出来るのは数ある環プロの中でもわずかで、このことも本プロジェクトの魅力だと考えております。

エコタイの広報活動

私たちは SNS、ブログを使ってエコタイの広報も行っています。これらではエコタイの発行情報や活動内容、その日あった環境に関するニュースなどを掲載しています。このようにすることでより多くの方にエコタイを知ってもらうことができ、さらにどのような環境問題が起こっているかを知ることで皆さんだけでなくメンバーの知識の向上にもつながります。現在、facebook や、twitter、mixi で行っています。お使いの方は是非アクセスして下さい。

新聞は読まれるためのものです。プロジェクトメンバーがどんなに頑張って記事を書いてもそれが読者の手に届くことがなければ本来の意味を失ってしまいます。そのようなことにならないために、また皆さんに環境問題を知ってもらうために SNS、ブログ担当メンバーは質の向上に努めていきたいと思っています。さらに環境に関する疑問や活動に対する意見などいただければプロジェクト全体の向上に繋がります。コメント、お待ちしています！

Ecological　Times　の環境配慮

11 月現在までエコタイは Web 上での発行にとどめており、紙での発行を行っていませんでした。これは紙で発行してしまうとこの新聞自体が環境負荷を生み出してしまい、本末転倒ではないかと考えていたからです。しかし Web のアクセス数が伸びず、読まれていないという現状はあきらかでした。それは新聞という読まれるべきものを作成している意味が無くなってしまうことを意味します。そこで、認知度を向上するため、より多くの人に読んでもらえるようにするためにも紙媒体での発行を企画・実行しました。紙での発行でそれらの実現が見込める理由として、Web という能動的な活動がなければ見られることのないものよりも紙で実際に渡したほうが読んでもらえるのではと考えたからです。さらには実際に紙で発行することで自分たちの活動を見える化し、活動に対する意欲を強くすることもできるのでは？と考えました。
しかし、一般の印刷紙で発行するわけにはいきません。そこで環境負荷を低減する紙・印刷方法を用いた新聞作りを行い、可能なかぎり環境に良いものにすることで当初の課題を解決しようと試みました。その結果、以下の４つものロゴを使用できる環境負荷の少ない、環境保全に貢献できる新聞作りが可能になりました。

【里山物語】

本紙に使われている紙は“里山物語”という紙になります。これは中越パルプ工業株式会社が 2009 年より開発・販売している紙です。紙自体は通常のものと同じですが、仕組みの違いから環境に対する負荷を低減することができます。

理由として、１点目は寄付金です。この紙を購入すると重量に応じた金額を寄付することができます。この寄付金は NPO 法人『里山保全再生ネットワーク』を通じて全国の里山保全・再生団体の活動サポートに活用されます。つまり、生物多様性の保全に貢献できるわけです。もちろん寄付金によって支援した団体の活動成果を Web で見ることもできます。また、支援団体との繋がりを持つことができるため里山保全活動に参加し、その様子を記事にすることで本紙を読まれている方へ環境負荷低減ができていることを証明することができます。

２点目、この紙は原料に国産間伐材を使用しています。（クレジット方式）国産材を使うことで日本の森林保全へ貢献できます。日本では林業が衰退しており、細く弱い木が林立する山林になっています。これは海外の安価な木材が多量に輸入され、より高価な国産材の需要が減少したためです。この紙を多くの人が使うことで国産材、特に間伐材の需要を高めることができ、結果林業が発展することで日本の山林が改善されるのです。間伐材を得るということは山林を手入れするということだからです。

＊クレジット方式とは、工場に入荷した間伐材の量に応じて紙に国産間伐材が配合されているとみなす方式が使われています。これにより手間を省くことでコストを抑えています。

【木づかいニッポン】

このロゴは以前使われていた 3.9 グリーンスタイルマークの後継として 2010 年 10 月より使用されているものです。林野庁の国産材を有効に活用しようという運動の一環で、国産材を使用したものにこのマークが添付されています。国産材は国内で得られる木材であり、海外から木材を輸入すると輸送の際にその分二酸化炭素が排出されます。しかし国内で木材を得ることができれば余計な二酸化炭素は排出されません。また上記のように日本の森林保全にも役に立ちます。余談ですが、元の 3.9 マークとは京都議定書で日本が掲げた二酸化炭素の削減目標のうち 3.9%を森林の二酸化炭素吸収がになっていることからこのような名前になりました。

【水なし印刷】

環境汚染につながる要因は実は私たちが気づかないところに存在します。印刷もその一つです。通常の印刷の場合だと現像に必要な薬品を大量に排出してしまいます。その薬品は強いアルカリ性であり、特別管理産業廃棄物として回収が義務付けられているほど有害なものです。それに対してこの水なし印刷は通常の印刷とは違い、現像するときにこの薬品を必要としません。なので有害な汚水を排出しないため環境に対する負荷を低減することができます。さらに水なし印刷は印刷の際に水を必要としないので印刷した文字が水でにじむことはありません。環境にやさしく、またクリアな仕立てをしてくれる水なし印刷を皆さんも使ってみてはいかがでしょうか。

【グリーン電力】

上記のような環境負荷の少ない紙を使用したり、印刷技術を用いたりしたとしても、印刷自体や運搬の際には二酸化炭素を排出し、環境負荷を創出してしまいます。このロゴは印刷時にも気を遣ったロゴなのです。このロゴは太陽発電やバイオマスなどの自然エネルギーを使用した発電方法で二酸化炭素を排出せずに得られる電力を使用していることを示しています。近年の原発問題で節電の風潮が高まり、また脱原発が叫ばれる中でグリーンエネルギーというのは現代社会にもっとも必要なエネルギー源であるといえます。今回の場合印刷にかかる電力の一部をバイオマス発電を利用したグリーン電力でまかなっています。

このような紙・印刷技術を使用することでエコタイでは環境負荷の低減を実施しております。

～ ～ ～ 編 集 後 記 ～ ～ ～

この度の新聞は、多くの皆様の御蔭で完成しました。ここでは書ききれないくらいの皆様の力を借り、完成しました。ここまで多くの人の力を借りて、停滞している場合ではありません。今居る場所から前を見て、進まなければなりません。この経験をバックボーンに、一歩ずつ進んでいきたいです。自分の道を胸を張って。

諌山未来雄

今回デザイン等をさせていただきましたが、みなさんいかがだったでしょうか。学生主体の活動と言うこともあり他の企業の方たちのブースには及ばないところもあったでしょうが、Ecological Times Project 一同このエコプロダクツ展にむけてこの新聞を発行するために尽力して参りました。武蔵野大学にはこんな活動があるのか、ということを分かっていただけたら幸いです。もしこのプロジェクトに興味がわいた、また環境に付いてもっと知りたいという方がいましたらネット上で新聞を発行していますので是非読んでください。どうもありがとうございました。

生田目雄太

如何だったでしょうか？武蔵野大学生の活動は。企業や NPO のブースと比べて見劣りすると思いますが、大学生なりに考えた活動をしていると思います。

この授業最大の魅力は自由度です。ここで言う自由とはただ活動内容のことを指しているわけではありません。自らが考え実行していくという自立と責任感、協力して下さっている各 NPO や企業、そして先生方のご支援によって享受している自由です。私たちはこのことを忘れることなく日々活動していかなければなりません。今回の発行にあたり私はこの事を強く感じました。お忙しい中我々に協力して下さいました。
NPO 法人そらべあ基金様、イーソリューション株式会社様、心より感謝申し上げます。

この新聞を読まれた皆様にはこういった活動をしている大学生の存在を知っていただき、少しでも環境に関心を寄せた生活をしていただければ幸いです。また、NPO や企業の方に今後協力をお願いするプロジェクトが出てくることと思います。その時、どうか相談にのって下さい。その上でよろしければ協力していただければありがたく思います。

Ecological　Times　Project 代表：三井翔太

本プロジェクトでは随時メンバーを募集しております。根本には授業がありますが、外部の方に協力してただいても支障はございません。興味を持たれたかた、話だけでも聞いてみたいという方がいらっしゃいましたら下記メールアドレスからご連絡下さい。よろしくお願します。

以下参照 HP。これらの HP にはエコタイの HP からリンクでアクセスできます。是非ご活用下さい。

Ecological　Times　Project：http://ecotimproject321.web.fc2.com/
ブログ：http://profile.ameba.jp/ecologicaltimesproject/
環境プロジェクト：http://mufes.jp/
Eco　Report　Way　21：http://www.ecoreport.jp/
武蔵野大学：http://www.musashino-u.ac.jp/

文章：三井翔太
編集：三井翔太
デザイン：三井翔太、諌山未来雄、生田目雄太
編集後記：三井翔太、諌山未来雄、生田目雄太
協力：NPO 法人そらべあ基金
　　イーソリューション株式会社

Ecological　Times
【第４号～エコプロダクツ展～】
発効日：2011/12/15
制作：Ecological　Times　Project
代表：三井翔太（環境学専攻２年）
Gmail：s1035041@stu.musashino-u.ac.jp
所属：武蔵野大学（東京都西東京市新町 1-1-20）